医療学部

作業療法学科

Department of Occupational Therapy

【取得可能な資格】
作業療法士国家試験受験資格

定員 40名

作業療法学科が養成する人材

養成する人材の具体像は3つです。「医学的知識をもとに身体と生活動作の関係を分析できる人材」、どんな筋肉や神経が生活動作に関与するか、解剖学・運動学などの医学的知識をもとに分析できる人材を養成します。つぎに、「心の理解者となれる人材」、病気やけがにより障害が残った場合、前向きな気持ちを持つことが困難になります。そのような状態の方の心へ寄り添い、生活を取り戻す気持ちを支えることは重要です。実現へ向けて一歩一歩進む方々の心について、深く共感できる人材を養成します。さらに、医療・福祉の大きな流れを捉え「地域包括システムで活躍ができる人材」、地域を理解し、地域住民がどのライフステージにおいても、住み慣れた場所で暮らすことができる地域づくりに貢献できる人材を養成します。

Admission Policy アドミッション・ポリシー

①作業療法の分野で活躍したいという目的意識が明確であり、何事にも自主的に取り組むことができる者
②基本的倫理観を持つ者
③各専門知識を学び応用するために必要な基礎学力を有している者
④海外の保健・医療・福祉、特に作業療法に興味を持つ者

Message

人の生活に手と脳の働きは欠かせません。例えば手のひらは平らではなく、くぼんだ形をしており、この形が崩れると道具の操作ができません。脳はその場所によって機能が決まっており、大脳前方部分の不調があれば、体へ運動の指令が送れません。作業療法士は解剖学や運動学、精神医学などの知識に基づいた医学的評価を行い、心身に不調をきたす小児から高齢者に至る幅広い対象者へ効果的なプログラムを提供します。つまり、生活に必要な動作能力の回復を図るため、手と脳の機能の治療・代償を行うスペシャリストです。
さらに今後は、国がめざす地域包括ケアシステム実現のため、医療と介護のシームレスな連携が求められます。言い換えれば、「その人の治療」にとどまらず「その人らしい生き方の実現」へ関わる専門性が必要とされます。
そこで本学科は、人の体と心を医学的に理解できることは基より、その人らしい生き方を考え抜く人材の育成を意識しました。論理的に思考して科学的に探究できる作業療法士をめざしましょう。

作業療法学科長
丹羽 敦 教授

国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻科修士課程修了、修士（保健医療学）、日本作業療法士協会養成教育委員会副委員長、福岡県作業療法協会副会長、JICA「中国リハビリテーション専門職養成プロジェクト」リーダーおよび作業療法専門家として現地指導。

本学はWFOT認定校です
福岡国際医療福祉大学は日本作業療法士協会および世界作業療法士連盟（The World Federation of Occupational Therapists,WFOT）の作業療法士教育基準の条件を満たした、WFOT認定校です。

作業療法学科の特色

現在、作業療法士の6割が総合病院やリハビリテーションセンターで働いていますが、地域包括ケアシステムの構築により、地域の人々のニーズに応えるための医学的知識を基礎にし、対象となる方々のライフスタイルに合わせた支援が求められています。地域で働ける知識と技術を身につけ、豊かな人間性を涵養する教育をめざします。

POINT.01
確実な医学知識の獲得

医療職である作業療法士は、解剖学、生理学、病理学などの基礎医学に続き、神経学、整形外科学、精神医学などにより病気を理解し、その知識のもとに作業療法評価学・治療学を学びます。介護保健施設、福祉施設、訪問リハビリ施設などで働く場合にも必須の知識です。

POINT.02
深く人間を理解できる豊かなこころを育む

作業療法で学ぶ専門性のひとつに、スポーツや歌、創作活動などの楽しみ活動、料理や畑作業などの生活に関連した活動を通じ、よりその人らしい生活を取り戻していただくための治療プログラムがあります。その学修過程で、個々人が抱く価値観の違い、対人関係を築く大切さを学びます。

POINT.03
地域包括ケアシステムの中で活躍できる知識と技術を獲得

地域包括ケアシステムは、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的に、多職種が協力して多様なニーズに応えるシステムです。3年次の地域作業療法実習では、介護保健施設や在宅などで、医学的知識に基づいて生活を多角的に評価し、一人ひとりのニーズに合わせて支援を行うためのスキルを学びます。

[作業療法の対象となる主な疾患・障害]

循環器系の疾患	脳血管疾患、心疾患など
精神および行動の障害	統合失調症、認知症、発達障害など
損傷、中毒など外因の影響	骨折など
神経系の疾患	アルツハイマー病、脳性麻痺、パーキンソン病など
介護保険の対象者	虚弱高齢者、要支援・要介護高齢者
筋骨格系・結合組織の疾患	関節症、肩の障害、脊椎障害など
腫瘍（新生物）	悪性腫瘍（新生物）など

[活躍のフィールド]

医療機関
●総合病院　●大学病院　●一般病院
●リハビリテーション専門病院
●訪問看護ステーション ほか

高齢者福祉機関
●老人保健施設　●老人福祉施設
●特別養護老人ホーム　●デイケアセンター ほか

地域包括ケアシステム関連
●地域ケア会議
●介護予防・日常生活支援総合事業　●認知症支援

児童福祉施設
●児童発達支援センター　●保育園
●特別支援学校 ほか

教育・研究機関
●作業療法士養成校
●リハビリテーションセンター・研究所

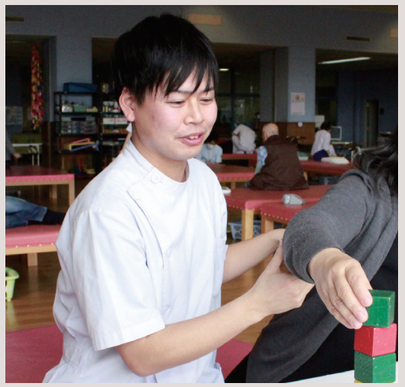
公務員
●福祉行政機関　●保健所
●福祉相談所 ほか

作業療法士として活躍中！

大学院に進学し研究や学会発表も継続 地域のみなさんの力になれる作業療法士に

回復期リハビリテーション病棟で、脳血管疾患や運動器疾患の患者様に対する在宅復帰や復職のための訓練、患者様のご自宅での家屋調査、外出訓練などを行い、再び家庭や地域で生活を送ることができるよう支援を行っています。さらに、回復期専従セラピストとして病棟に入院される患者様やご家族との入院面談を実施するほか、医師、病棟の看護師、社会福祉士といった他職種との情報交換を行い、カンファレンスにも出席しています。
作業療法士は、対象となる方の生活に関わります。一人ひとり異なる生活背景を聞き取りながら、疾病やけがに伴い日常の生活行為が困難となった患者様と共に考え、方法を工夫しながら、その方の生活を再構築していく、とてもやりがいのある仕事です。それだけに、選択肢の引き出しとなるたくさんの知識が必要です。日々目の前の患者様と一生懸命関わりつつ、勉強会への参加や文献抄読などで新しい知識を得ていき、研究活動や学会での発表も継続していきたいと思います。

PROFILE
2013年国際医療福祉大学を卒業し、高木病院に入職。入職2年目に、柳川リハビリテーション病院へ異動。同時期より国際医療福祉大学大学院修士課程に進学する。現在は、臨床で業務に取り組みながら研究活動、論文執筆、学会発表を行っている。



松本　健太郎 さん
柳川リハビリテーション病院　作業療法士

その人らしい生き方を支援する作業療法を修得できるカリキュラム

一人ひとりに寄り添い、その人らしい生き方を医学的に理解し、支援する作業療法を効果的に修得できるカリキュラムを設定しています。その中で、子どもから高齢者まで幅広い方を対象とした作業療法を通じながら、心身の障害を理解していきます。また、日常生活で対象者が抱え得る問題を把握し、治療・支援方法を立案するための知識を学びます。さらに実践力について、グループ関連医療福祉施設を中心とした1年次の基礎実習、2年次から4年次までの臨地実習を通じて身につけます。

特色ある授業（演習・実習）

中枢神経疾患作業療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

筋肉や骨といった全身の運動器、脳や脊髄といった中枢神経に対して、病気やけがを負うことで手や脳などの身体機能の低下、日常生活の活動にまで制限が引き起こされます。それらの動作能力の回復に向けた作業療法の治療や代償について学修します。

精神疾患作業療法学

脳の器質的、機能的な問題によって引き起こされる心の病気の特徴や日々の生活行為に及ぼす影響について学び、その人らしい目的や価値を持つ生活を理解し、コミュニケーションスキルなどを含めた社会復帰・就労に向けた作業療法の治療や代償について学修します。

小児作業療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

人間の正常発達を理解し、発達障害児の評価に必要な正常な発達段階と発達課題を理解すると共にそれぞれの過程で生じる疾患と障害の成り立ちや回復過程の基本的知識、さらに作業療法治療に至るプロセスの基本的な知識と技術について理解を深めます。より実践的な治療方法や支援技法を学ぶため、遊びの計画や自助具の製作過程において対象者への適応を考えることでより臨床的な知識を修得します。

VOICE

3Dバーチャル解剖台や筋電図バイオフィードバック装置など、最新機器を駆使した先端技術を学びたい

作業療法学科 3年
安達 なづな さん
（山口県立下松高等学校出身）

福岡国際医療福祉大学には、各器官の位置関係を立体的に把握できる3Dバーチャル解剖台があります。解剖のエキスパートが執刀した実際の画像が大きく映し出され、自由自在に動かしたり、断面を詳細まで観察したりすることができます。このように学びを深めるための機器が充実していることもあり、私は福岡国際医療福祉大学への入学を決めました。入学後、印象に残った授業は1年次の専門科目である「作業工程技術学」です。革細工やマクラメを使って実際に作品を作るなかで、どの動作がリハビリに生かせるのかを分析する授業です。何気なく行っている動作の中に、実はいくつもの身体機能が関わっているということを知り、作業療法士についてもっと深く学んでいきたいと思うきっかけになりました。患者さんは一人ひとりが異なる境遇や環境を持っています。さまざまなアプローチ方法がある中で、その方に最も適したリハビリ方法は何なのかを吟味し実行できる作業療法士になるのが私の夢です。勉強に付き合ってくれる友達にも恵まれているので、ここで一緒に夢を叶えられたらと思います。

4年間の学修の流れ

1年次

医療と作業療法の基礎知識を学び、関心と自覚を高めます。

専門基礎科目

【必修】
●解剖学Ⅰ ●解剖学Ⅱ ●解剖学実習 ●生理学Ⅰ ●生理学Ⅱ ●生理学実習 ●病理学 ●リハビリテーション医学 ●人間発達学 ●基礎薬理学 ●運動学Ⅰ ●運動学Ⅱ ●リハビリテーション概論
【選択】
□公衆衛生学 □栄養学 □カウンセリング論 □ケアマネジメント論 □保健医療福祉制度論

専門科目

【必修】
●作業療法概論 ●作業学概論 ●作業工程技術学・基礎論 ●作業工程技術学・応用論 ●地域生活支援論 ●基礎実習Ⅰ ●基礎実習Ⅱ
【選択】
□作業応用論

総合教育科目

【必修】
●心理学 ●社会保障制度論 ●データサイエンス ●医療とICT ●生命倫理 ●大学入門講座 ●医学英語Ⅰ ●医学英語Ⅱ
【選択】
□生物学 □生化学 □韓国語 □中国語

2年次

作業療法の基本的な評価技術を理解します。

専門基礎科目

【必修】
●臨床医学概論 ●内科学Ⅰ ●内科学Ⅱ ●神経学Ⅰ ●神経学Ⅱ ●整形外科学Ⅰ ●整形外科学Ⅱ ●精神医学Ⅰ ●精神医学Ⅱ ●小児科学 ●老年学 ●臨床心理学概論 ●救急医学 ●運動生理学 ●運動学実習 ●関連職種連携論

専門科目

【必修】
●リハビリテーション倫理学 ●作業分析学Ⅰ（基礎） ●作業分析学Ⅱ（応用） ●生活機能論 ●作業療法評価学概論 ●作業療法評価学各論 ●基礎運動機能評価法 ●高次脳機能評価法 ●作業療法評価学演習 ●作業療法適用学概論 ●コミュニケーション技術論 ●障害代償学概論 ●バリアフリー論 ●地域生活作業療法論
【選択】
□作業療法諸理論

総合教育科目

【必修】
●海外保健福祉事情Ⅰ（講義） ●海外保健福祉事情Ⅱ（実習）

3年次

障害の特性に応じた治療・支援技術を修得します。

専門基礎科目

【必修】
●医用画像診断学 ●関連職種連携ワーク
【選択】
□リスクマネジメント論

専門科目

【必修】
●卒業研究Ⅰ ●リハビリテーション管理論 ●中枢神経疾患作業療法学Ⅰ（総論） ●中枢神経疾患作業療法学Ⅱ（各論） ●高次脳機能障害作業療法学 ●老年期作業療法学 ●運動器疾患作業療法学 ●内科系疾患作業療法学 ●精神疾患作業療法学Ⅰ（総論） ●精神疾患作業療法学Ⅱ（各論） ●小児作業療法学Ⅰ（総論） ●小児作業療法学Ⅱ（各論） ●生活技術学Ⅰ（総論） ●生活技術学Ⅱ（各論） ●自助具・福祉機器適用論 ●装具・副子適用論 ●義肢適用論 ●住環境整備論 ●職業関連技術学 ●地域作業療法実習 ●評価実習
【選択】
□中枢神経疾患作業療法学Ⅲ（特論） □精神疾患作業療法学Ⅲ（特論） □小児作業療法学Ⅲ（特論）

総合教育科目

1～4年次【選択】
□哲学 □倫理学 □文学 □教育学 □教育方法論 □コミュニケーション概論 □雑談と傾聴―話す力と訊く力― □日本近現代史 □宗教学 □アジア比較文化論 □法学 □経済学 □社会学 □国際医療福祉論 □ボランティア論 □ボランティア実践 □物理学 □人間工学 □医学・医療史 □健康科学理論 □健康スポーツ実践 □メディカルマナー入門 □医療福祉教養講義 □英語（基礎） □英語（応用） □英会話

4年次

実習を通して応用力を身につけます。卒業研究をまとめ、国家試験対策学修に取り組みます。

専門科目

【必修】
●卒業研究Ⅱ ●作業療法総括論 ●総合実習

総合教育科目

【選択】
□死生学―死を通して生を考える―

●=必修科目 □=選択科目